

舞踊記譜法を用いた文理融合型の身体動作の分析

中村 美奈子 / NAKAMURA, Minako

文教育学部芸術・表現行動学科

■専門分野 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
■キーワード 舞踊人類学、舞踊記譜法、インドネシア、舞踊動作分析、舞踊アーカイブ

連絡先 nakamura.minako@ocha.ac.jp
http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/nakamura.html

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

前述の主要業績1は、ロボティクスの研究者とダンスノーテーションの研究者の初めての合同研究会で、文理融合型の研究会といえます。ロボット制御のコンピュータの内部表現としての身体動作記譜法にダンスノーテーションを用いるという試みを行っています。また、「身体動作の標準化」という点で、企業からご相談を受けたこともあります。

主要業績2は、筆者の科研費と大学のシミュレーションセンターの助成を受けて行った研究で、舞踊の身体運動を三次元的に計測して身体動作の分析を行い、かつ、舞踊動作のアーカイブを構築するという目的のもとに行っています。内容は、フィールド調査を含みます。文系寄りの文理融合型研究といえると思います。主要業績3は、舞踊実践です。筆者自身も表現者として舞踊実践にかかわることにより、舞踊の外側からだけでなく内側からの観察も可能となると考えています。また、グローバル化は言語表現だけではなく身体表現による部分も大きいはずです。身体文化の研究は、筆者の研究の軸になっています。

■応用・将来展望

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきました。最近、ロボティクス方面からの（舞踊記譜法に関する）問い合わせが多いので、今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えています。また、無形文化財のデータベース（アーカイブ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイブ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行ってみたいと考えています。また、教育工学という視点から舞踊記譜法 Labanotation の教育教材開発にも携わってみたいと考えています。しかし、やはり、舞踊実践にかかわってほしいという希望は強く、お茶大では難しいですが、ワールドダンスのような、様々な国や民族の舞踊について理解を深めていけるような公的な機会を設けていけたらよいなあと考えています。

■活動実績

2014年9月16日（火）18:30 - 20:30 お茶の水女子大学大学体育館1階ダンス室において、お茶の水女子大学公開講座「レクチャー&ワークショップ:オレグ・タムリリンガンに学ぶ、バリ女性舞踊の基本動作」を主催しました。学術協定校であるインドネシア国立芸術大学デンパサール校 (ISI Denpasar) より、チョコルダ・イストゥリ・ブトラ・バドミニ教授を招聘して行い、参加者より好評を得ました。2015年度は、筆者が共同研究員を務める立命館大学アートリサーチセンターで行っている共同研究の研究協力者として、同大学のオカ・バルティニ氏を招聘予定です。

主要研究成果

1. Worawat Choensawat, Minako Nakamura, Kozaburo Hachimura, "GenLaban:Autonomous Dance Avatar for Generating Stylized Dance Motion from Simple Dance Notations", 1st Workshop of the Anthropomorphic Motion Factory: Dance Notations and Robot Motion, November 13-14th, LAAS-CNRS in Toulouse, France, 2014 (講演内容を2015年度中にテキストブックとして発行予定。)
2. 中村美奈子, バリの女性舞踊の動作特性について, 2015年度人工知能学会全国大会, 口頭発表, 2015年5月30日 (<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2015/session-230.html>)
3. バリ・アートセンターで開催されるバリ芸術祭 (Pesta Kesenian Bali) において, 2014年6月29日にイ・グスティ・オカ・バルティニ氏 (インドネシア国立芸術大学デンパサール校教授) 企画公演にダンサー (バリ舞踊) として出演しました。(バリ芸術祭は, 毎年6月半ばから7月半ばにかけてインドネシア・バリ島のアートセンターにおいて開催される芸術祭で, 国内外からの参加があります。) また, 2015年は, お茶の水女子大学の学生と院生もほかの外国人の弟子らとともに同芸術祭に出演しました。

